

G-0066



滿洲國政府



土地第四五〇號 13

康德元年十月十八日

滿洲帝國政府土地局長 壽 幸

外務省條約局長 殿

謹啓

時下秋冷、候閣下益御清穢ノ段奉賀候
陳者 本職儀弊國 土地制度確立準備ニ關シ調査ヲ兼テ貴國土地行政狀
況視察旁御高見拜聽ノ爲顧問ノ案内ヲ以テ來ル十一月中旬頃貴國御
訪問申度存居候ニ就テハ時局御繁忙ノ折柄甚々御迷惑トハ存シ候得
共 弊國 發展ノ爲何卒可然御教示ヲ賜リ度此段得貴意候也 謹白
追テ不動産ニ關スル立法、行政、金融及行政區劃ノ確定、土地裁
判制度、不動産收稅其他地政ノ參考トナルヘキ資料統計等御取繼
メ御惠與ニ預リ得ハ誠ニ幸甚ニ有之宜敷御願申上候



1.A. 9000册(北原納)

用-0101

63.1.0.1

滿洲國政府



土地第四五〇號 15

康德元年十月十八日

滿洲帝國政府土地局長 壽 幸

外務省内

永代借地權委員會 御中

謹啓

時下秋冷、候閣下益御清穢ノ段奉賀候
陳者 本職儀弊國 土地制度確立準備ニ關シ調査ヲ兼テ貴國土地行政狀
況視察旁御高見拜聽ノ爲顧問ノ案内ヲ以テ來ル十一月中旬頃貴國御
訪問申度存居候ニ就テハ時局御繁忙ノ折柄甚々御迷惑トハ存シ候得
共 弊國 發展ノ爲何卒可然御教示ヲ賜リ度此段得貴意候也 謹白
追テ不動産ニ關スル立法、行政、金融及行政區劃ノ確定、土地裁
判制度、不動産收稅其他地政ノ參考トナルヘキ資料統計等御取繼
メ御惠與ニ預リ得ハ誠ニ幸甚ニ有之宜敷御願申上候



1.A. 9000册(北原納)

用-0101

G-0066

0030

分類	2
項目	0
目録	53

(分類 G 3.1.0.1)

昭和十一年一月十日 起草
同 年 月 十五日 附御裁可

上 奏 案

大使館一等書記官山本熊一ヨリ願出有之候滿洲國臨時土地制度調査
會委員ノ委囑ヲ受ケ同國政府ヨリ所要出張旅費ノ支給ヲ受クルノ件
御裁可相仰度
右謹テ奏ス

外 務 省

10.12

歐亞局

公機密第二〇八九號

昭和十一年十二月七日

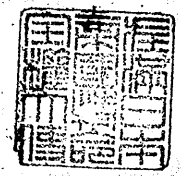
在滿洲國

特命全權大使 植田 謙

外務大臣 有 田 八 郎 殿

元東鐵商務學校家長俱樂部所有家屋及借地權
ニ關シソ側抗議ノ件

本件ニ關シ滿洲國外交部ヨリ十一月二十七日及二十九日附同部大臣宛北滿特派員報告送付越セルニ付御參考迄別添送付ス
本信寫送付先 哈爾濱



第一課
昭和十一年十二月十四日接受
別紙添付

東亞局
第三課

在滿日本帝國大使館

G-0066

0039

秘第一一二二號

康德三年十一月二十七日

外交部北滿特派員
施履本

外交部大臣
張燕卿殿

元東鐵商務學校家長俱樂部所有家屋及
借地權ニ關シソ側抗議越ノ件

十一月二十六日ソ聯總領事スラウツキー當署ニ本官ヲ來訪シ本件
ニ關シ

哈爾濱警察官憲ノ強盜的行動ハ遂ニソ聯總領事館ノ所有物デアリ
現在父兄會ノ管理下ニ在ルソ聯工業學校建物ニ迄及ヘリ該家屋ハ
一九二五年ヨリ父兄會ノ所有タリシモ東京協定ニヨリ父兄會ノ財
産ハソ聯總領事館ニ移管サルルコトナリ予ハ總領事ノ名ニ於テ

在滿日本帝國大使館

本建物ニ對シ義捐金トシテ父兄會ニ貳萬圓ヲ支出セリ

更ニ予ハ地畝管理局ヨリ一九三五年一月所有權ニ關スル認可ヲ受
ケアル他本財産ヲ立證スル多クノ資料ヲ手持シアリソ聯總領事館
ハ豫而ヨリ地畝管理局ヨリ該財産關係書類ヲ受領スヘク奔走シア
ルモ同管理局ハ種々口實ヲ設ケ今日マテ右書類ノ交付方ヲ遷延セ
リ去ル二十四日當方館員カ地畝管理局ニ至リ書類交付方ヲ督促セ
ルニ同管理局員答ヘテ曰ク「財産ニ關スル書類ハ全部整理準備サ
レアルモ上司ノ指令ニヨリ交付不可能ナリ」ト

予ハ本件ニ關シ會テナサレタル貴署上野氏トドリピンスキー副領
事トノ會談記錄ヲ指摘セサルヲ得ス即チ右會談ニ於テ上野氏ハ地
畝管理局ト折衝スヘキ旨言明セリ

然ルニ突如一昨二十四日哈爾濱警察官憲ハ父兄會長タル領事館員
ノ妻ブラトノワヲ逮捕シ更ニ又父兄會委員タルソ聯人シヨフヲ
モ逮捕セリ(彼等ハ後刻釋放セラレタリ)シヨフニ對シテ警察ハ
父兄會委員ヲ辭スヘク申渡セリ更ニ警察ハ右家屋番人ニ對シ該家

在滿日本帝國大使館

屋ハソ聯所有ノモノニ非サルヲ以テ本家屋ヨリ退去スヘント申渡セリ
前述セル所ニヨリ警察カソ聯總領事館所有財産ノ奪取ヲ試ミアルハ明瞭ナリ
若シ假令該建物カ滿洲所屬ノモノナリト假定スルモソ聯總領事館カ借用使用シアル場合ハ正當ナル手段即チ外交機關ヲ通シテ措置セラルヘキモノナリ況ンヤソ聯所屬財産ニ於テオヤ
故ニ本官ハ茲ニ斯種警察ノ行動ニ對シ嚴重抗議スルト共ニ警察ノ番人ニ與ヘタル指圖及ソ聯所有財産ニ對スル警察側ノ干涉ノ迅速ナル撤回ヲ要求シ併而地畝管理局ノ急速ナル關係書類交付方ヲ要望ス
更ニ白系露人事務局ハ半歲以前ヨリ本財産ヲ奪取セント欲シ日滿側ノ支援ヲ得テ法的乃至個人的情報ニヨリ各種ノ手段ヲ講シタリ例ヘハ白系露人事務局ハ一九二五年以前ノ舊父兄會長タルオツトナルモノヲ招致シ本名ニ就キ諸事情ヲ聽取セリ同事務局ハ不斷ニ

在滿日本帝國大使館

地畝管理局カ關係書類ヲ交付セサル様妨害ヲ試ミタルカ結局何等ノ結果ヲモ得ラレサルヲ見テ遂ニ警察力ニヨル強制的奪取ノ手段ニ訴ヘタリ
敘上ニヨリ予ハ本件ニ關シテハ白系露人事務局カ何人ヨリモヨリ大ナル役割ヲナシアリトノ結論ニ到達スルト共ニソ滿兩國親善ヨリ露人局ノ役割カヨリ高價ニ見積ラレアリトノ見解ヲナスモノナリ從ツテ予ハコレカ爲事態ノ複雑化ヲ招來スヘキヲ豫見セサルヲ得ス
哈爾濱警察ハソ聯總領事館ニ對シ直接行動ニ出テタリ而モ同警察ハ予ノ上野氏ニナセル電話ニヨル警告ニモ不拘總領事館會計科長ノ妻ヲ逮捕留置シクズネツオフ副領事及オルロフ秘書ノ眼前ニ於テ犯罪人同様ノ取扱ヲナセリ
斯クテ予ハ本件複雑化ノ全責任ハ滿側ノ負フヘキモノナル旨重ネテ茲ニ聲明シ迅速ニシテ決定的措置方ヲ要求スル萬一滿洲政府ニシテコレニ對シ何等ノ措置ヲモ講セサル場合ニハ予ハ本問題ハ既

在滿日本帝國大使館

ニ中央ト完全ナル連繫ノ下ニ發生セルモノト思考スルモノナリ
右ニ對シ本官ハ
一應警察官憲ニ就キ調査スヘキモ問題ハ財産所屬ニ係リアルニ看
テ純然タル法律問題ナリ從ツテ法ニ照シ解決セラルヘキモノニシ
テ外交手段ニヨルヘキモノニ非ス貴方ノ諸資料(書類ニヨル)ハ
外交機關ノ審査シ得サルモノナリト應酬セルニ
ス總領事ハ
然ラス本件ハ個人的事件ニ非スシテ滿洲警察ヨリ發生セルソ聯總
領事館ニ關スル問題ナリ而モ本件ハ東京協定ニモ關係ヲ有スト述
ヘタリ
本官ハ東京協定ニハ全然關係無シト認ムト述ヘタルニ對シスハ飽
迄東京協定ニ關係ヲ有スト主張シ本件ヲモスコ、東京ニ報告ス
ル方針ナリト述ヘタリ
右報告ス

本信寫送付先 陸特機、地管、哈警

在滿日本帝國大使館

G-0066

0042

秘第一一二三號

康徳三年十一月二十七日

外交部北滿特派員

施履本

外交部大臣
張燕卿 殿

元東鐵商務學校家長俱樂部所有家屋及
借地權ニ關シソ側抗議越ノ件

本二十七日ソ聯副領事クズネツオフ、オルロフ秘書帶同當署員ヲ
來訪本件ニ關シ（十一月二十七日附往信秘第一一二二號參照）昨
二十六日ス總領事ヨリ施特派員ニ對シ爲サレタル抗議及注意喚起
ニモ不拘哈爾濱警察ノソ聯總領事館所有家屋問題ニ對スル態度ハ
何等改善サレ非サルノミカ惡化スル一方ナリト冒頭シ本朝一露系
警官ハ家屋番人宅ニ至リ番人ニ對シ本日午後三時迄ニ本家屋ヲ立
退クヘシ然ラサル場合ニハ家財道具ヲ家外ニ放擲スヘシト申渡ス

在滿日本帝國大使館

ト共ニ番人携帶ノ鍵ヲ奪ヒ最后ニ警察廳ニ出頭ヲ命シテ退去セリ
命セラルルママニ警察廳ニ出頭スルヤ脊高ク肥滿シ手鞆ヲ所持セ
ル一露人ハ自己ノ姓名ヲ名乗ラスシテ家屋ハ余ノ所有ニ屬スルヲ
以テ速ニ同家屋ヨリ退去スヘキ旨述ヘタリ
番人ハ廳内ニ於テ始末書（内容ヲ質セルモ談ラス）ヲ強制的ニ書
カサレタル后歸宅ヲ許サレタリ
斯クテ番人ハソ聯總領事館所有家屋ト共ニ警察官憲ノ世界ニ類例
ナキ無謀ナル直接行動ニヨリ非常ノ危險ニ晒サレアリ斯ノ種滿側
官憲ノ不當行爲ハ斷シテ黙過スル能ハスト色ヲナシ其ノ非ヲ鳴シ
殊ニ番人ニ對スル警察側ノ直接行動阻止方ニ關シ當方ノ措置ヲ要
望越セリ右ニ對シ當方ハ事情ハ承知シ非サルヲ以テニ應警察ニ照
會スヘシト應セルニクハ本日午後三時以降ニ於ケル番人ニ對スル
警察側ノ處置ニ關シ大ヒニ懸念シアルヲ以テ至急對處有度若シ當
方ノ豫告ニモ不拘不愉快ナル事態發生セハコレヲモスコウ、東京
ニ報告シ可然對抗策ニ出ツヘク右複雑化ノ責ハ滿側之ヲ負ブヘキ

在滿日本帝國大使館

モノト論難最後ニクハソ聯領事館所有財産ニ對スル警察ノ態度ニ
關スル貴見如何ト質セルニ對シ當方ハ昨日施特派員ヨリス總領事
ニ説明濟ミナルヲ以テ茲ニ再言スルノ必要ヲ認メスト應答シ置ケ
リ

右報告ス

本信寫送付先

哈機、哈警、地管

在滿日本帝國大使館

G-0066

0044

秘第一一二五號

康徳三年十一月二十九日

外交部北滿特派員

施履

本

外交部大臣
張 燕 卿 殿

元東鐵商務學校家長俱樂部所有家屋及
借地權ニ關シソ側抗議越ノ件

十一月二十八日ソ聯總領事スラヴツキー本官ヲ來訪シ本件ニ關シ
一昨日余ハ貴官ニ對シ哈爾濱警察ノソ聯所有財産奪取ニ關シ警告
ヲ爲セリ又昨二十七日午後三時迄ニクスネツオフ副領事ヨリ貴署
佐藤氏ニ同様ノ警告ヲ發セルニモ不拘昨日午後四時ソ聯家屋ニ警
官十名ハ右家屋ノ持主ト自稱スル白系露人及新番人各一名ト共ニ
來リ家屋番人ニ一定期間内ニ退去スヘキ旨申渡セリ自稱家主ハ同
家屋ヲ巡閱シ同家屋ニ居住ノ借家人等ニ同家屋カ右自稱家主ニ屬

在滿日本帝國大使館

スル旨印刷セラレアル白系露人事務局用箋ヲ配布セリトテスハ同
家屋内第七號ニ居住ノソ聯總領事館員ニ配布セラレタル右用箋ヲ
提示セリ(同用箋面ニハ余ハ元東鐵商務學校父兄會受託人ナルヲ
以テ將來ノ家賃ハ余宛支拂ハレ度借家條件等ニ關シテハ余ニ御相
談有度尙必要ノ場合ハ新番人メリニコフニ御照會有度ト記載セラ
レ末尾ニ法律科長コサキンノ署名捺印アリ)
余ハ右自稱コサキンヲ狂人ト見做スモノナリ川手氏ヲ主班トスル
警官十名ハ該狂人ヲ強盜トシテ取扱ヒ得サリキ斯ル強盜タルヤ當
然投獄セラルヘキ筈ノモノナリ川手氏ハ強盜ノ首魁ナリト川手氏
ニ傳達有度
這般ノ行爲ハ宛モ一支那人カ赤塔滿洲國領事館所有自動車ヲ同地
ソ聯警察ノ支援ノ下ニ滿洲國領事館ノモノニ非ストテソノ所有權
ヲ主張スルカ如キモノナリ
今次ノ事件ニ於テ當方ノ二回ニ亘ル警告ニモ不拘敢行サレタル明
白ナル強盜行爲ニ警察カ參加シアリ然モ川手氏ハ右家屋カ確然タ

在滿日本帝國大使館

ルソ聯總領事館所屬ナルヲ知悉アルヲ想フ時啞然タルモノ無キ能ハス
敍上ニヨリ余ハ滿洲國官憲ハ緊密ニ白系露人事務局ト連繫アリト
ノ結論ヲナスモノナリ從ツテ滿洲國官憲及白衛兵ハ強盜トイクウ
オールナリト看做ス滿洲國官憲ハ白衛兵ト結托シソ聯總領事館奪
取ヲ可能事ト考ヘ居レリ滿洲國警察ハ事態惡化招來以前ニ本件ニ
關シコレヲ防止スルヲ得サリキ
余ハ警察官憲カソノ行動ヲ停止スルコト全借家人等ニ對シ受託人
ハ狂人ナリト聲明ヲ爲シ併セテ前記通告ヲ取消サシメ更ニ警察官
中ヨリモ犯人ヲ處罰シ特ニ川手氏ノ嚴重處分ヲ斷乎要求ス
余ハ茲ニ改メテ該家屋ハソ聯總領事館ノ所有物ニシテ何人タリト
モ奪取出來サルモノナル旨正式ニ聲明ス
若シ右家屋カソノ人ニ所屬スルモノナリトノ言ヲナスモノアラハ
ソノ人ヲシテ裁判所或ハ其ノ他滿洲國官憲ニ訴ヘシムヘシ
而シテ本件ハ我總領事館ト貴公署ノ關係並ニ其ノ他ノソ滿關係ニ

在滿日本帝國大使館

重大ナル反映ヲ及ホスヘキハ滿洲國自身ニ於テ感スルナラン
右ニ對シ本官ハ
極ク最近ノ情報ニハ接シ非サルモ一昨日及昨日二回ノ貴方ヨリノ
來訪後當方ハ警察廳ト連絡セル處貴言ノ如ク番人ヲ強制的ニ退去
セシメアラス極メテ穩當ナル手段ニヨリ同家屋ヨリ立退クヘク豫
告セルニ過キササルコトヲ知り得タリ而シテ警察廳ハソノ從屬スヘ
キ上司ヲ有シアリ從ツテ當公署トハ命令系統ヲ異ニス故ニ警察ニ
對スル貴方要求ヲ實現スルハ不可能ナラン而シテ一個人トシテ言
ヘハ警察ハ宛モ強盜ナルカノ如キ貴言ハ我方ニ對スル大ナル侮辱
ニシテ貴官ハ總領事トシテ斯カル言辭ニ對シ重大ナル責任ヲ負ハ
サルヘカラサルニ至ルヘシ
茲ニテ如何ニ論議ヲ交スモ實益ナキニ付余ハ貴官ヨリ本件解決ニ
對スル何等カノ具体的意見ヲ傾聽シ度ク本件解決ニ何等供與スル
所ナカルヘキ餘計ノ論議ハ聽取スルヲ欲セス
ス總領事曰ク

在滿日本帝國大使館

余ハ總領事トシテ余ノ全言辭ニ對シ責任ヲ負フヘシ余ハ一昨日貴官トノ會見ニ於テ要請セル哈爾濱警察廳ノ強盜的行爲ニ關シ新京ヘ傳達有リタルヤ否ヤ承リ度

右ニ對シ本官ハ

關係機關ニモ照會ノ上事情ヲ報告シ置ケリ

調査ノ結果如何ナル事實判明セリヤトノス總領事ノ問ニ對シ本官ハ余ハ中央政府ヨリノ訓令接受ノ上回答スヘク從ツテ調査ノソノ都度ニハ之ヲ爲サスト應酬セルニス總領事ハ

如何ナル具體的決定ヲ貴官ハ余ヨリ聽取セラレ度キヤト反問セルニ本官ハ

本問題解決ニ關スル吾人ノ意見ハ相互ニ符合シ非ス本官ハ前回會談ノ際ニモ言ヘルカ如ク本件ハ全然法律的性質ヲ有スル問題ト看做シ居ル處今日貴官モ該家屋ニツキ新ニ權利ヲ主張スル者ハ裁判ニ訴フルカ順當ナリト言ヘルヲ以テ本件ハ裁判事件トスヘキニ非スヤ

在滿日本帝國大使館

ス總領事曰ク

余ハ裁判事件トハ考ヘ居ラス飽ク迄外交問題トシテ交渉スル意向ナリ裁判ニ訴フヘキモノト言ヘルハ人アリテ警察ニ或ル家屋カソノ人ニ所屬スト聲明セハ警察トシテハソノ人ヲ裁判所ニ事件解決ノ爲メ送致スヘキモノニシテ警察自ラ直チニ實力ヲ行使スルハ不當ナリ

余ハ迅速ナル家屋ノ開放、犯人ノ處罰ヲ絕對的ニ要求スルト共ニ右ニ對スル滿洲國政府ノ回答ヲ期待ス

而シテ余ハ警察及白系露人事務局ト何等ノ談判ヲモ爲ササルヘク本件解決迄ハ他ノ如何ナル談判ヲモ爲ササルヘシ

余ハ本件ヲ直チニモスコ―ニ報告スヘキカ余ノ聲明ヲ正確ニ新京ノ大橋氏ニ傳達有ランコトヲ特ニ要望ス余ハ大橋氏ト會見ノ際余カ貴官ニ述ヘタル所ヲ全部大橋氏ニ開陳スル意向ナレハ正鵠ナル傳達ノ有無ニ關シテ貴官ハ全責任ヲ負ハルヘシ

以上

在滿日本帝國大使館

電信課長

昭和12 二四一二 略

新京 九日後發
本省 二月九日後着

亞

大臣

林外務大臣

植田大使

次官



第七七號 (至急)

本月三日附公機密第一七六號往信ニ關シ(暫行外國人土地法案ニ關スル件)

東亞 歐洲 米商 通商 條約 情報 文庫 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

八日ノ會議ニ於テ國籍法制定ノ目鼻付キ居ラサルコト及此ノ種法令ハ日本人關係ニハ特ニ必要ナキコトヲ理由トシテ不取敢ノ措置トシテハ(一)建國當等中國人タル者ニシテ其ノ後引續キ滿洲國內ニ住居セサル者ノ土地權利ノ處理及(二)日本以外ノ第三國人カ建國前ヨリ享有セシ租權又ハ其ノ他ノ土地權利ノ處理ヲ規定スレハ足ルヘク依テ曩

寫送先

外務省

ニ送付ノ法案第八條及九條ヲ主體トシテ所謂既得權ノ整理方法ヲ規定シ更ニ將來ニ於ケル權利得喪ニ關シ第六條及五條ノ趣旨ヲ規定スル方針ノ下ニ更メテ滿側ニテ法案ヲ作成シ更ニ審議スルコトトナリタルニ付右御了知相成度ク尙御氣付ノ點モアラハ御回示相煩度シ

(了)

外務省

特扱

昭和12 二四一二 略

新東京 九日後發
本省 二月九日後着

林外務大臣

植田大使

第七七號 (至急)

本月三日附公機密第一七六號往信ニ關シ (暫行外國人土地法案ニ關
スル件)

八日會議ニ於テ國籍法制定ノ目鼻付キ居ラサルコト及此ノ種法令
日本人關係ニハ特ニ必要ナキコトヲ理由トシテ不取敢ノ措置トシ
テハ (一) 建國當等中國人タル者ニシテ其ノ後引續キ滿洲國內ニ住居セ
サル者ノ土地權利ノ處理及 (二) 日本以外ノ第三國人カ建國前ヨリ享有
セシ租權又ハ其ノ他ノ土地權利ノ處理ヲ規定スレハ足ルヘク依テ接

電信寫

外務省

ニ送付ノ法案第八條及九條ヲ主體トシテ所謂既得權ノ整理方法ヲ規
定シ更ニ將來ニ於ケル權利得喪ニ關シ第六條及五條ノ趣旨ヲ規定ス
ル方針ノ下ニ更メテ滿側ニテ法案ヲ作成シ更ニ審議スルコトトナリ
タルニ付右御了知相成度ク尙御氣付ノ點モアラハ御回示相煩度シ

(了)

外務省

G-0066

0049

東亞局

第三課

昭和三年十二月拾六日接受
附屬別便

綴込

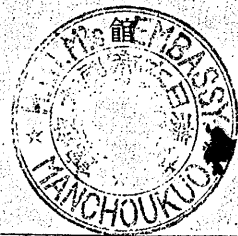
公普通第二二三一號

昭和十二年十一月十日

在滿

日本帝國大使

外務省 御中



「ヘーデマン土地法要綱」送付ノ件

今般當國地籍整理局ヨリ首題圖書寄贈越シタルニ付右一部茲ニ送

付ス

分類 G3.1.0.1

別冊三課圖書(法制)

在滿日本帝國大使館

G-0066

0050

外務大臣

政務局(重)

第二課

昭和十八年四月十五日接

執

祕第二四五號

昭和十八年四月九日

在滿

特命全權大使 梅津美治郎

大東亞大臣 青木一男 殿

外國人土地租權整理法ニ依ル租權申告ニ關シ
蘇側申出ノ件

滿洲國ニ於テハ客年外國人土地法並ニ外國人土地租權整理法制定
公布セラレ外國人土地租權ハ原則トシテ本年二月十日迄ニ本法ニ
依ル租權申告ヲ必要トスル事ト成リタルカ在滿蘇側機關ノ土地ニ
關シテハ北鐵讓渡協定第五條及第六條ノ規定ニヨリ在哈蘇聯邦總
領事館及宿舍、所定ノ目的ニ、ミ使用サルル中學校及診療所並ニ

在滿日本帝國大使館

政務局(重)

三課

条約部

二課

分類 43.1.0.1

滿洲外交
格少石

「ウスリー」及「モロトフ」鐵道敷地ハ例外トシテ本法ニヨル申
告ヲ免除セラルル事ト成居ル處蘇側ハ右北鐵讓渡協定ノ規定ハ廣
ク蘇側一般公用土地ニ適用セラルヘキモノナリトナシ再三且執拗
ニ滿側ニ對シ右一般公用土地ノ租權申告免除ヲ要求シ來リタルモ
滿側ハ北鐵讓渡協定規定以外、在滿土地租權ハ凡テ整理法ノ適用
ヲ受クルモノナリト、根本方針ヲ以テ終始一貫之ニ對抗シ兩々相
讓ラス遂ニ所定申告期限タル二月十日ヲ經過スルニ至レリ、滿側
トシテハ屢次ニ亘ル申告ノ猶豫ニモ拘ラス蘇側カ外國人土地法ノ
趣旨ヲ無視シ申告ヲ拒否スルノ舉ニ出テタルハ當該土地ニ對スル
租權立證ノ確信乃至證憑無キヲ曝露セルモノニシテ之ニヨリ今後
蘇側證憑ノ如何ニ拘ラス北鐵讓渡協定所定ノ土地ヲ除ク公用土地

在滿日本帝國大使館

ニ對スル蘇側ノ無權利ヲ主張シ得ル事ト成レリトナン二月二十六日附ヲ以テ駐哈特派員ヲシテ蘇側ニ對シ覺書ヲ以テ左記要旨ヲ通告セシムルト共ニ今後共右方針ヲ堅持スル趣ナリ何等編考迄此段報告ス

記

本邦ニ於ケル外國人土地租權整理法ノ施行ニ關聯シ北鐵議定協定所定ノ土地ヲ除ク在滿蘇聯公用土地ニ付蘇側自体ノ權利確保ノ爲本法施行ノ日ヨリ一年以内ニ其ノ租權ヲ地勢編局長宛申告スヘキ旨我方屢次懇篤ニ説明懲滯シ來レルニモ拘ラス蘇側カ何等相當ノ理由ナクシテ法定期間内ニ本件申告ヲ履行セサリシハ我方ノ諒解ニ苦シムトコロニシテ蘇側ハ法的ニハ右ニ依リ自ラ當該土地ニ

在滿日本帝國大使館

對スル租權主張ノ根據ヲ喪失シタルモノト看做サルヘキ旨茲ニ通告ス

本信寫送付先 外務大臣、クイブイ、浦潮

在滿日本帝國大使館

外務大臣

政務局(重)

昭和十八年六月 拾日接受
別紙添附

秘第四〇四號

昭和十八年六月二日

在 滿

特命全權大使 梅津 美治郎

大東亞大臣 青木 一 号 殿

最々貴所存蘇聯人所有土地建物ニ關スル件

本件ニ關スル駐哈蘇總領事館及外交郵務派員間交渉關係概算

ノ通外交郵次長ヨリ送付越スルニ付何等御参考第一紙送付ス

本信寫送付先 外務大臣

在滿
事務

分類 G 3.1.0.1 (備)

在滿日本帝國大使館

政
18.6.10
三

18.6.10

G-0066

0054



秘第九二號

庚申年二月十三日

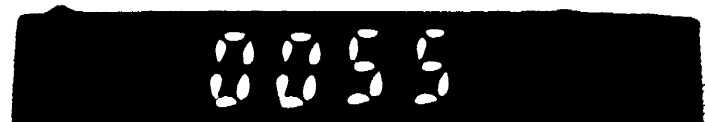
外交部特派員
代行 大石重雄

外交部大臣
李紹庚 殿

場々誤所在「ソ」聯人所有土地建物ニ關スル件
 客年十二月五日附懸第八二六號往書ニ係ル首題ノ件ニ關シ本年
 一月五日蘇側ヨリ重キテ別添寫甲圖ノ類々書翰ヲ以テ申越セル
 ニ付二月十日別添寫乙圖ノ類々圖答シ置ケリ
 尙本件ハ法律的ニ蘇側ノ要請ヲ一應シ得サルヲ以テ一應斷然ヲ
 提起セシメ我方ニ有利ニ解決スル如ク地方法院側ノ斷解ヲ取付
 ケ置ケルニ付右申添フ
 右報告申進ス

在滿日本帝國大使館

G-0066



一九四三年一月五日

外交部特派員代行
大石重雄 殿

駐哈爾濱總領事 ユーゲン

拜啓 陳者一九四二年十二月五日附貴函ニ記述アリタル事々其
三五七號地段並ニ其ノ地上建物ニ對スル應得賃金ハエ。エス。オ
レホワ³⁰及「ア。エス。マリノフスカヤ」(現在在ノ名ニヨリ
オシボワ³⁰ト稱ス)ノ權利ニ地方官廳調査ノ結果ニ於キ本官ハ
ル部分ニ於テ左ノ根據ニヨリ正シカラサルモノヲ發見スルニ候
一「チユグエワ」ノ死後遺サレタル家屋ハ彼女ノ妹「アンナ」及
「エカテリナ」ニヨリ相續サレタルモノナルヲ認メ
官憲カ何故カ本官等カ該地屋ニ對スル所有權ヲ快キ且右ハ單
「チユグエワ」ノ賃借關係ノミナリトノ根據ニヨリ遺産ヨリ
地籍ヲ除去シアリ候

在滿日本帝國大使館

從ツテ地方官憲ノ考ヘニ依レハ相續ニ際シテハ所有權ノミ移
行シ他ノ如何ナル權利モ移行シ得サル事ニ相成候事如斯解釋
ハ否曲サレ且滿洲國法規ニモ矛盾スルモノニ候
滿洲國法規(民法第一一四八條參照)ニヨレハ相續ハ總ニル
性質ヲ包括シ且權利義務ハ極端ニ個人的ナルモノ(例ヘハ年
金權)ヲ除キ被相續者ハ總テノ權利義務ヲ繼承スルモノニ候
「チユグエワ」ハ第三五七號地段ノ遺産ヲ所有シアリタルニ
ヨリ該家屋ノ所有權カ該等ヘ移行セルニ伴ヒ遺權モ亦遺産ト
シテ彼女等ニ移行セルモノニ候
右ハ別添寫ノ如キ廣德二年(一九二五年)三月十三日附第
三七號特別區地方法院ノ裁決ニヨリ確證サレアリ候
三加而「オシボワ」及「マリノフスカヤ」カ一九三
七年四月該裁決ニ基キ安達縣地政管理廳第四科ニ對シ第三五
七號地段租權ノ本名等ヘノ名義變更ニ關シ申請セル際地政管
理廳ハ廣德四年(一九三七年)三月二十日附第一五號ヲ以テ

在滿日本帝國大使館

G-0066

批示ヲ與ヘ被女等ノ要請ヲ滿尾セシメ候
 地政管理局ハ單ニ履行手續ニ基テ該地等ヨリ國庫迄ノ借地
 料納入證ノ提示ヲ要求セルノミニ候
 右ニヨリ且ルモ地方官憲ノ「オシボワ」及「マリノフスカ」
 ノ第三五七號地政相續權否定ハ全ク無効ノモノニ候
 三 地政管理局ノ該批示ニヨリ「オシボワ」及「マリノフスカ」
 ハ若シ官憲側ヨリノ障礙ナキハ既ニ呈請ニ對シテ受領
 シ得シモノニ候
 「オシボワ」及「マリノフスカ」ノ「オレホワ」ハ現在應務第
 ニ居住致居候間實際上自己所有財產ノ管理不能ナルニヨリ有
 目的ノ爲哈爾濱ノ某ニ宛委任狀ヲ遺付候シ候
 然ルニ相續財產ハ先夫「マリノフスカ」ノ管理下ニ有之候
 シテ一九三八年彼ノ死後ハ其ノ弟ノ管理下ニ有之候
 從ツテ借地料支拂ニ關スル凡有通知書及受領證ヲ被等ヨリ受
 領シ得ザリシモノニ候

在滿日本帝國大使館

一九三八年五月滿地實情調査ノ爲應務總領事館員二名場々
 ニ出張候シテ警察署長ト會談致候節前記警察署及遺付候セル委
 任狀ヲ提示シ「オシボワ」及「マリノフスカ」ノ「オレホワ」
 ノ財產管理ヲ被女等ノ委任狀ニ記載アル如ク應務人ノ一人モ
 シクハ總領事館ヘ移管方要請致候
 當初署長ハ總領事館ノ要請ニ對シ難斷並ニ履行方針取致候モ
 其ノ後之ヲ回避シ「マリノフスカ」トノ斷會成ハ該所提議
 ヲ遂行致シ候
 實情右ノ如クニシテ「オシボワ」並ニ「マリノフスカ」ノ「オ
 レホワ」ノ權利並ニ被女等カ出シタル委任ニ關スル如何ナル
 書類モ官憲ニ提出セラレタルコト無シトスル官憲ノ説明ハ右
 ニ依リ驗證セラルルモノニ候
 一九四二年十二月五日附貴館ニ被ルモ場々官憲ハ現在實「
 マリノフスカ」ハ「オシボワ」及「マリノフスカ」ノ「オレホ
 ワ」所有財產ノ法的管理人ニ非ストスルニ於テハ被女等ハ被

在滿日本帝國大使館

ノ罷免方法院ニ申請ス(シト)依然並置置居候
 總領事館ハ新カニ結納並ニ撤消ニ關シテハ法的ニモ並置置居候ニモ
 效力ナキモノトシテ如何ナル場合ニ於テモ同意シ得サルモノニ候
 既ニ死亡セル前夫「マリノフスキ」ニシテモ亦其ノ弟ニシテモ
 何等ノ權利モナク單ニ地方官憲ノ許可ニ依リテ財產ヲ管理シ奉
 ニ管理シアルコト何等ノ疑モ無之候
 地方官憲自身「アンナ・マリノフスカヤ」カ「マリノスキ」ト
 離婚シ蘇聯僑民ト結婚シ彼ト共ニ蘇聯國ニ去リタルコトヲ認メア
 リ候 從ツテ彼女ノ前夫ハ既ニ彼女ノ財產ニ對シテモ其ノ弟「オ
 シボワ」ノ財產ニ對シテモ何等ノ關係モ無之コト明白ニ候 死亡セ
 ル「マリノフスキ」ノ弟ハ尙舊關係少キモノニ候 地方官憲カ以
 上ヲ承知シ非サル筈無之候ニモ拘ラス我僑民「オシボワ」及「マ
 リノフスカヤ」オレホワ」ノ等ヲ餘地ナキ權利及蘇聯僑民ノ内ノ
 他ノモノニ彼女等ノ財產ヲ管理セシメントスル彼女等ノ意思表示
 ニ反シ「マリノフスキ」ニ對シ彼ノ所有ニ歸サル財產ノ管理並

在滿日本帝國大使館

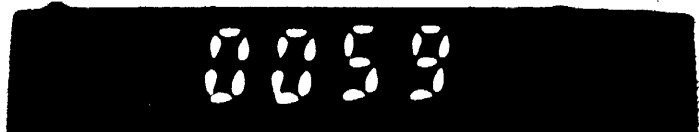
ニ利用ヲ許容シアルコトハ「チユグエワ」ノ相続人タルニ名ノ
 我カ僑民ノ法的權利並ニ利益ヲ侵害シアル「マリノフスキ」ノ
 明白ナル不法行爲ヲ官憲ノ權威ニヨリ支持サレアルモノト謂フ
 他無之候
 地方官憲カ蘇聯僑民ヲシテ法院へ手續セシムル後撤消有之候モ
 右撤消ハ夫レ自身法的根據ヲ有セサル單ナル形式的逃口上ニ有
 之候
 若シ權利ニ關シ何等カノ紛争有之ニ於テハ訟訴ニ依リ申上クヘ
 ク候モ前夫故「マリノフスキ」ニシテモ亦其ノ弟ニシテモ「
 チユグエワ」ノ相続者ノ財產ニ對シ何等ノ關係ヲ有シアラス亦
 有シアラサルコト官憲ニ於テ充分了知シアル處ニテ「マリノフ
 スキ」カ實際上管理シアルハ單ナル警察當局ノ許可ニ過キヌ
 候 如斯實情下ニ於テハ法院申立ノ必要無之警察カ「マリノフ
 スキ」ヨリ彼ノ所屬ニアラサル財產ノ管理ヲ奪ヒ「オシボワ
 並ニ「マリノフスカヤ」オシボワ」ノ委任狀或ハ蘇聯總領事館ヨ

在滿日本帝國大使館



リ全權ヲ委任セラレタルモノニ管理ヲ許サレタルヘキモノニ候
兼上ノ根據ニヨリ本官ハ再度場^キ兼管兼官兼ニ對シ「チエグエツ」
ノ相續財産ヲ相續者ノ委任者或ハ監時兼管兼官兼ニ對シ
適當ナル指令ヲナサレンコトヲ至急要請スル次第ニ候
茲ニ「オシボワ」及「マリノフスカヤ」ノ相續財産ニ關スル
法院裁決ノ寫並地畝局第四科ノ批示寫添附候
敬具

在滿日本帝國大使館



裁 決 廣 德 元 年 第 三 七 號

聲 請 人 耶 喀 切 林 那 謝 爾 夫 那 沃 西 波 瓦

蘇 俄 人 住 橫 濱 河 子

又 安 那 謝 爾 夫 那 馬 力 謝 爾 夫 那 牙

無 國 籍 住 河 上

右 共 同 代 理 人 石 野 學 爾 律 師

右 聲 請 人 因 確 認 繼 承 事 件 本 院 審 查 裁 決 如 左

主 文

已 故 無 國 籍 耶 喀 切 林 那 謝 爾 夫 那 沃 西 波 瓦 之 遺 產 繼 承 人 平 均 齊 哈 爾 站 之 第 三 五 七 號 地 段 及 其 上 之 建 築 物 等 應 歸 聲 請 人 平 均 繼 承 嗣

聲 請 費 用 歸 聲 請 人 負 担 嗣

在 滿 日 本 帝 國 大 使 館

G-0066

0050

地款管理局第四分局批示第一三號

地款管理局分局

具呈人 沃・西拔瓦

康德四年四月十九日呈件均悉查該管承屬坊第三五七舖土地租
權等情尙屬可行仰將康德元年起至康德四年止各年交租收據一併
送屬以憑核辦此批

局長 馮 振 華 印

康德四年五月二十日

在滿日本帝國大使館

G-0066

0066

公函第五號

康徳十年二月十日

外交部特派員

代行 大石 重雄

駐哈爾濱總領事
ソシエ ユコフ 殿

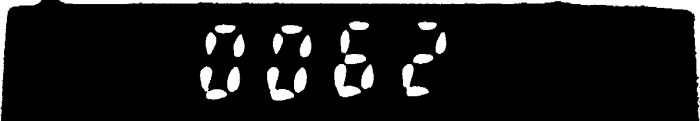
拜啓 陳者昂々溪所在第三五七號地段並ニ其ノ地上建物ニ關スル蘇聯人「オシボワ」及「マリノフスキー」姉妹ノ權利ニ關シ再度御照會アリシ本年一月五日附第正ノ二號貴館拜啓後、客年十二月五日附往翰ヲ以テ本件ニ關スル現地官廳ノ調査ノ結果ヲ御問答申上置候處右ニ就關係書類ヲ提供サレ其ノ關係ヲ指摘セラレ候カ當時ノ事件關係者現存セサル實情ニ於テ取調ニ多少ノ誤リハ避ケ得ス此ノ點更ニ進ンテ現地官廳へ照會スル程ノ重要性モ無之茲ニハ一月五日附御問答ヲ其ノ儘事實ト便宜シ

在滿日本帝國大使館

貴見ニ關シ左ノ通我方見解ヲ重キテ表明致置候

「オシボワ」カ前夫「マリノフスキー」何時離婚セルヤ不明瞭ニ候モ妹ト共ニ歸國セルハ康徳二年五月名義變更ノ申請ハ康徳四年五月貴館領事館員カ現地ニ赴キ管理問題ニ就キ具議ヲ申出サラレタルハ康徳五年五月ニ御座候
右ノ事實ヨリ、(イ)名義變更ノ申請ハ相續者姉妹ニ非スレバ他ノ者カ代理セルコト、(ロ)相續者姉妹ハ離婚後ニ於テ前夫「マリノフスキー」ノ管理ヲ認メ相當期間ニ亙リ其ノ管理ニ就キ異議ヲ申出テス歸國後三年ヲ經過シタル後貴館領事館ヲ進シ始メテ苦情ヲ申越セルト判明致候從ツテ此ノ事實ヨリ想像セララルコトハ離婚ニ際シ該遺產ノ讓渡アリタリトハ断定シ得サルトスルモ尠ク共前夫「マリノフスキー」ノ管理カ判決上ノ何等カノ不法行為ニ基キ開始セラレタルニ非スレバ一定ノ根據アリタルハ一點ノ疑ナキトモ思ハレ候
ニ遺產相續ニ關スル貴官ノ法律論ニ就キ重大ナル誤解アルヲ以

在滿日本帝國大使館



テ一應説明ヲ加ヘ置キ候節テ法院ノ相續權確立ノ法律的
效果ニ就キ強制執行力アルカ如ク解釋セラレアルハ貴國ニ於
テハ或ハ斯カル制度アルヤモ知レサルカ我カ法制ニ於テハ強
制執行法（廣義四年六月三十日附勅令第二〇七號ノ規定ニ依
ルヘク現管理人ヲ行脱力ヲ以テ追出セトナスハ違法ニ御座候
管理人ヘハ其ノ見ヨリ其ノ權利ヲ繼承セルモノニテ横領乃至
詐欺ノ犯罪行為ニ依リ該遺產ノ管理ヲナシアルニ非ヌ右ニ對
スル強制執行ハ法律ノ執行判決ヲ要スルモノニ候
統上ニ依リ本件ニ關スル貴官ノ御要請ハ違法ナルコトヲ瞭解セ
ラルルモノト原料スルト共ニ貴國答致シ置キタルカ如ク當然
法律ニ訴ヘ現管理人ノ管理ヲ取消サルヘキモノニ候
右國答旁々得貴意候

敬具

在滿日本帝國大使館

寫

30
祕第二六九號

康德十年五月十三日

外交部特派員
代行 大石 重雄

外交部大臣
李 紹 庚 慶

30

昂々溪所在土地建物ノ紛争事件ニ關スル件

二月十三日附祕第九二號往信ニ係ル首題ノ件ニ關シ三月三十一日蘇備ヨリ添寫甲號ノ如キ書翰ヲ以テ再度甲越セルニヨリ五月十三日別添寫乙號ノ如キ書翰ヲ以テ對蘇國答シ置ケリ

在滿日本帝國大使館

G-0066

0064

一九四三年三月三十一日

駐哈蘇聯總領事

パウールイチエフ

外交部特派員代行
大石重雄 殿

拜啓 陳者蘇聯僑民「エ・エス・オシボア」及ヒ「オレホア」ノ財産管理問題ニ關スル本年二月十日附第五號貴翰落手致シ候コト貴官ニ通報致候 本官ハ「オレホア」ノ前夫「マリノフスキ」カ財産管理ニ對スル確固タル根據ヲ有ストノ上記貴翰ノ見解カ實情ヲ否曲スモノトシテ貴意ニ同意シ得サルモノニ候「オシボア」及ヒ「オレホア」カ一定期間内ニ「オレホア」ノ前夫ニヨル彼等ノ財産管理ニ不同意ノ聲明ヲナササリシ事實カコレニ對スル兩名ノ同意ヲ證明スルモノニハ無之候同意ハ例ヘハ

在滿日本帝國大使館

文書ニ依ル如キ確固タル證據物件ニ依ツテナササルヘキモノニ候兎角當方ニハ「オレホア」ノ前夫ニヨル彼等ノ財産管理ニ對スル兩名ノ不同意ヲ證明スヘキ證明書有之候本證明書ハ既ユ一九三三年七月七日附「オシボア」及ヒ「オレホア」カ辯護士「ゲ・エヌ・ミンスキ」ニ與ヘタル委任狀ニシテ本委任狀ハ一九三三年七月八日第一一八號ニテ哈府國家公證事務所カ證明セルモノニ候本委任狀ニヨリ「オシボア」及ヒ「オレホア」ハ本名等カ相續權ヲ有スルモノト確認ノ下ニ「ミンスキ」ニ對シ財産ノ管理及賣却ヲ委任セルモノニ候「マリノフスキ」カ法的權利ヲ有セサルニ不拘其ノ後モ財産ノ管理ヲ續行セシハ一九三五年秋「ミンスキ」ノ歸蘇「オシボア」及ヒ「オレホア」ヨリノ新委任狀受理ノ必要性、兩名ノ相續權確認ニ就テノ裁判等々ニヨリ發生セル事態ニ依ルモノニ候 以上ノ如キ諸事情ハ「オレホア」ノ前夫ヲシテ若干期間ノ間財産所在地ニ居住スル可能性ヲ與ヘ候モ右ハ決シテ「オレホ

在滿日本帝國大使館

ワ」ノ前夫ヲシテ之等財産管理上ノ法的權利ヲ與ヘルモノニハ
無之「マリノフスキー」ハ法的所有者ノ要求ニ依リ右地區ヨリ
立退クヘキ義務ヲ有スルモノニ候
一九三七年乃至一九三八年「マリノフスキー」死後昂々漢警察
署ハ右財産ヲ自己ノ統制下ニ置キ故「マリノフスキー」ノ弟ニ
之ヲ管理セシメ候
貴翰ニ依レハ現管理人ハソノ兄ヨリ管理權ヲ相續セルモノト指
摘シオラレ候モ、貴見ハ全ク奇怪不可解ニ存セラレ候上述セル
如ク「オレホワ」ノ前夫ハ我カ居留民ノ財産管理ニ關シ何等ノ權
利ヲモ所有セサルモノニ有之、從ツテ「マリノフスキー」死後
ノ相續物件ハ何等存在セサルモノニ候然レ共「オレホワ」ノ前
夫カ管理權ヲ所有シオレリト假定スルモ右ハ全ク私的權利ニシテ
テ本管理權ハ相續ニヨリ移行セラルヘキモノニハ無之候
(民法第一一四八條適用)サレハ現管理人ヲ以テ故「マリノフ

在滿日本帝國大使館

スキー」ノ權利相續人ト見做シ得サルモノニ候
斯クテ現管理人ノ行動カ何等裁判上ノ判決ニヨラス昂々漢警察
官憲ノ許可ニヨルモノナル限リ現管理人ヨリ右財産權利相續
ハ昂々漢警察官憲ノ義務ニ候
ソレ故法的財産所有者ハ「オシボワ」及ヒ「オレホワ」ニシテ
且ツ兩名ノ利權ハ本名等ノ委任者或ハ總領事館ニ委ネラルル旨
總領事館員カ昂々漢警察官憲ニ呈出セル書類ヲ昂々漢警察官憲
カ確認セル一九三八年夏以來警察官憲ハ右財産管理權ヲ「オシ
ボワ」及ヒ「オレホワ」ノ委任者カ或ハ蘇聯總領事館ノ選定スル者
ニ移管スヘキ義務有之候
財産所有者ハ自己財産ノ受領ニ對スル絕對權ヲ有シ、警察官憲
ハ之ヲ援助スヘキ義務ヲ負フカ故ニ右ノ如キ法的對策ヲ遂行ス
ルニ當ツテハ滿洲國法ヲ警察官憲カ侵犯スルモノニ非スト思料
致シ候
一九三七年六月三十日附法令第二〇七號中ニ所有財産ヲ相續人

在滿日本帝國大使館

ニ讓渡スル爲ノ強制執行ノ必要性ニ關スル規定有之候ヲ以テ「
オシボウ」及ヒ「オレホ」ニ屬スル財産ヲ右兩名ニ移管スル爲
ノ強制手段必要性ニ關スル實見ニ對シ本官ハ同意シ得サルモノ
ニ候

現管理人ニ關シテハ本人ニ對スル管理ノ許可カ警察官憲ニ依リ
與ヘラレタルモノナルヲ以テ警察官憲カ管理權許可ヲ取消シ財
産ヲ相續人或ハソノ法的代理人ニ讓渡スヘキモノニ候
右ノ爲メニハ如何ナル告訴モ必要無之候
上述ノ如キ理由ニ基キ本官ハ本事件ニ就キ當方最初ノ請願ヲ堅
持スルモノニ候

「ミンスキート」委任狀寫シ同封致シ候

敬 具

在滿日本帝國大使館

G-0066

0057

委任状

下記署名セル「エカチエリーナ・セメヨールワ・オシボワ（生家名チユグエワ）」及ヒ「アンナ・セメヨールワ・オレホワ（生家名ミハイロフスカヤ）」ハ本委任状ニ依リ哈爾濱在任ノ「グリゴリ・ナワモイヅイチ・ミンスキ」辯護士ニ相續權確認ニ關スル事務遂行權昂々漢第一衛所在ノ財産管理及ヒ處理財産賣却權ヲ委任スルモノナリ
「グリゴリ」ナワモイヅイチ・ミンスキ」ハ滿洲國最高後見裁判所ニ於テ當方ノ名ニ於テ辯護スル完全ナル權利ヲ有ス

ア・エス・オレホワ
エ・エス・オシボワ

本委任状ハ哈府國家公證事務所ニ於テ確認サル
單一國家年費料十留 領收證第二七六號 哈府市
一九三三年七月八日 第一一一八號 第二部領收證

在滿日本帝國大使館

公署人署名

駐哈府外務人民委員外交代表部ハ本署ヲ以テ「ア・エス・オレホワ」及ヒ「エ・オシボワ」カ「ミンスキ」・グリゴリ・ナワモイヅイチ」ニ與ヘテ委任状ニ對スル公證人「ウエルヂエレフスキ」署名ノ眞正ナル事ヲ確認ス駐哈府外務人民委員外交代表代理署名、第九十號一九三三年七月二十九日駐哈爾濱蘇聯總領事館ハ一九三三年七月八日第一一一八號ニヨル哈府國家公證事務所及ヒ一九三三年七月二十九日第九十號ニヨル駐哈府外務人民委員部外交代表部ノ確認アル「ア・エスオレホワ」及ヒ「エ・オシボワ」ノ本委任状カ哈爾濱在任ニシテ且ツ蘇聯總領事館ニ知巳ノ契約被委任者「ミンスキ」ニヨリ駐哈蘇聯總領事館ニ呈出セラレシ事ヲ確認ス
一九三六年八月五日 哈爾濱

登録番號 第一一二二三號
副領事 ゴンチャルスキ
公證係主任 ゴランスキ

在滿日本帝國大使館

乙

公函第一六號
康德十年五月十三日

外交部特派員
代行 大石 重雄

駐哈蘇聯總領事
パワルイチエフ 殿

拜啓 陳者昂々溪所在第三五七號地段並ニ其地上建物ノ歸屬問題ニ關スル本年三月三十一日附五第十四號貴翰ニ於テ初メテ出現セル律師「ミンスキ」ノ存在ハ興味アルモノニ有之候即チ客年八月十二日附及本年一月五日附貴翰中ニハ全然存在ヲ示ササリシ律師「ミンスキ」カ最近ニ至リ突如現出セルハ不可解ナルト共ニ右ハ本問題ノ根源檢察ニ重要ナル示唆ヲ與フルモノニ有之候カ三月三十一日附貴翰添附該委任狀寫ナルモノハ左記實情ヨリシテ全ク不可解ナル文書ト斷スル外無之亦如斯

在滿日本帝國大使館

委任狀ニテハ貴官ノ申越ヲ正當ナリト認メ得スト思料スルモノニ候

記

一客年八月十五日附貴翰記載ノ如ク「オシボワ」及ヒ「オレホワ」カ右委任狀ヲ律師「ミンスキ」ニ附與セルモノニ候ハハ「ミンスキ」ハ當然右委任狀ニヨリ法院ヘノ申請ヲナシタル筈ナルニモ不拘康德元年非字第三七號北滿特別區地方法院ノ裁決ニ記載サレ居ル律師ノ氏名ハ「石留畢爾」ト有之「ミンスキ」トハ全然別人ナリト斷セサルヲ得サルモノニ候

從ツテ客年八月十二日附貴翰前段記載ノ「遺產相續確定ニ關スル所要手續ハ「オシボワ」及「オレホワ」カ蘇聯邦ヨリ送付越セル右委任狀ニヨリナサレタリ」トアルハ事實ト相違スルモノニ候

客年八月十二日附貴翰記載ノ如ク該委任狀カ蘇聯邦ニ居住シアル本名等ヨリ送付サレタリトスレハ非字第三七號地方法院裁決

在滿日本帝國大使館

G-0066

0059

記載ノ相續申請者ノ住所ハ當然蘇聯邦ト相成ルヘキニ不拘右申請者ノ住所ハ横道河子ト相成リ居リ貴方申越トハ全然相違致候
 候 若シ貴官カ貴方申越ハ鮑迄正當ナリト主張セラルルニ於テハ本名等ハ法院ニ對シ虚偽ノ申請ヲナシタルモノト斷スルノ外無之從ツテ法院ノ裁決ハ再檢ヲ要スルモノト思料致候
 更ハ本名等カ蘇聯邦ニ引揚ゲタルハ康德二年ナルコト現地官憲ヨリノ通報ニヨリ分明シアルヲ以テ康德二年即チ一九三五年ニハ滿洲國內ニ居住シアリタルコト明白ニシテ一九三三年ニ本名等ハ「ハバロフスク」ニ居住シアリタリトハ思考セラレヌ候
 從ツテ本名等カ「ハバロフスク」ニ於テ委任狀ヲ作製シ得サルハ無論ノコトニ候
 三 更ニ一九三三年附該委任狀記載ノ發給者氏名ハ「アンナ・セミヨノワナ・オレホワ」及「エカテリフ・セミヨノワナ・オシホワ」ト相成居候モ康德元年（一九三四年）非字第三七號地方法院ノ議決ニハ白系露人「アンナ・セミヨノワナ・マリノフス

在滿日本帝國大使館

カイト記載サレアリ候ヲ以テ本名カ一九三四年ニハ未ダ白系露人「マリノフスキ」ノ妻ニシテ蘇聯人ニ非サルモノト斷スルノ外ナク貴方申越トハ根本的ニ相違シアリ候
 四 亦一九三三年發給サレタル該委任狀ニ一九三五年八月附ノ蘇聯總領事館ノ裏書有之候モ法院ノ裁決アリタルハ一九三五年三月ニシテ本名等ノ委任者ハ當然必要ナルヘキ蘇聯總領事館ノ裏書ナキ委任狀ヲ以テ法院ニ對シ申請ヲナシタルモノト解セサルヲ得サルモノニ候カ之亦不可解ナル事實ニ候
 以上ノ如ク貴官送付越ノ委任狀ハ貴官申越ト矛盾シアルノミナラス全ク實情ト相違シアルモノニ有之候間該委任狀ノ效力ニ關シ多大ノ疑問アリト思料セラルルモノニ候

敬 具

在滿日本帝國大使館

秘

寫

政務局(三)
外務大臣

秘第八二五號

昭和十八年十一月十日

在 滿

特命全權大使 梅津 美治郎

大東亞大臣 青木 一男 殿

「カトリック」教會土地權利ニ關スル件

本件ニ關シテハ往信秘第二七五號ヲ以テ報告申進メ置キタル處其ノ後滿ニテハ本年四月上旬關係機關協議ノ結果決定セル方針ニ基キ別添ノ通り國有財産法ノ一部ニ改正ヲ加ヘ從前土地審定法ニ依リ國有ト審定セラレタル土地ニシテ外國人租權ノ附帶スルモノニ付テハ其ノ個々ノ件ニ付調査ノ上該租權ノ内容所有權ニ相當スルモノニ限リ之ヲ租權人ニ無償讓渡スルコトトセリ
尙本法ハ大体十二月一日頃公布ノ豫定ニテ外國人土地租權整理事

在滿日本帝國大使館

別紙添附

政 18.11.19

業ハ昭和十九年度中ニ關係事務ヲ終了スル豫定ナル趣ナリ
此段茲許報告申進ス

在滿日本帝國大使館

G-0066

寫

勅令第 號

外國人土地租權ノ附帶スル國有地ノ讓與ニ關スル件
 土地審定法ニ依リ國有ト審決定シタル土地ニシテ外國人土地租權
 ノ附帶スルモノニ付テハ其ノ租權内容所有權ニ相當スル場合ニ限
 リ國有財産法第十條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該租權人ニ讓與スルコ
 トヲ得
 前項ノ規定ニ依ル讓與アリタル場合ニ於ケル不動産登録税及不動
 産取得捐ハ之ヲ課スルコトヲ得ス
 附 則
 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

在滿日本帝國大使館

寫

外國人土地租權ノ附帶スル國有地ノ讓與ニ關スル
件立法理由書

従前土地審定法ニ依リ國有ト審決セラレタル土地ニシテ外國人租
 權ノ附帶スルモノノ内該租權ノ内容所有權ニ相當スルモノニ限リ
 外國人土地租權整理事業ノ實施ヲ機トシ外交政策上ノ考慮等ニ基
 キ之ヲ租權人ニ無償讓渡スルノ要アルニ因ル

在滿日本帝國大使館